

“小池新党”の伸張が気になる中

蠢き出す「ポスト安倍」 筆頭はやはり石破氏か

政治ジャーナリスト 鈴木哲夫

6割以上が総裁3選望まず

内閣改造で、多少は回復した内閣支持率だが、依然国民世論は安倍首相に対して厳しいようだ。

読売新聞社と早稲田大学現代政治経済研究所が、7～8月に行なうた政治意識に関する全国世論調査では、安倍首相にいつまで首相を続けほしいと思うかについて、「自民党総裁の今の任期が切れる2018年9月まで」が41%、「すぐに退陣してほしい」は23%あり、6割以上が、ついに総裁3選を望んでいないという結果が出た。

ポスト安倍ではこんな調査結果がある。FNN（フジテレビ・ニュース・ネットワーク）の最新の世論調査では、今首相に相応しい自民党議員は？という問いに、安倍首相が抜かれ第1位に石破氏が23・0%、第2位が安倍首相で22・6%。以下小泉進次郎党副幹事長10・8%、岸田文雄党政調会長9・2%、野田聖子総務相4・7%、麻生太郎副総理兼

財務相4・5%、河野太郎外相3・3%などと続いたのだ（8月19、20日）。

ついでの前まで、「安倍一強」と言われ、自民党内で誰も安倍首相には文句も言えず、来年9月に行なわれる自民党の総裁選でも、再選間違いないと見られていた。

それが、加計学園問題や自衛隊の日報隠蔽問題の説明責任を果たさず、そして交友達優遇の姿勢が、ついに国民の不信感を買った形だ。これらの空気は、当然党内で反安

倍の言動や、ポスト安倍の動きを誘発している。どんな面々がポスト安倍で蠢き、3選を狙う安倍首相とどんな争いになって行くのか。

「最近の言動などから見れば、ポスト安倍候補は、石破氏、岸田氏、野田聖子総務相、河野太郎外相の4人と言つていいだろう」（自民党ベテラン議員）

しかし、この4人は、はつきり2つに分けられるという。

「来年の総裁選に出て堂々と戦い獲ろうとしているのは石破氏。後の3



総裁3選を目指す安倍氏だが……（自民党）



安倍首相批判を日に日に強める石破氏（自民党）

人は今回の内閣改造で入閣したり、党三役になって安倍首相を支えていたりするわけだから、総裁選で安倍首相に反旗を翻して出るのには筋が通らない。この3人は、取りあえず大人しくして安倍首相が次に出るなら待つて禪譲狙い、政局になるなど大混乱したら出るといった様子見だろう」（前出ベテラン）

確かに安倍首相は改造で、岸田、野田、河野の3氏については、傘下に入れて勝手に行動できないように押え込んだ。

一時、石破氏についても、安倍首相があえて最大のライバルを取り込むかもしれない、との噂も出たが人

聞はなかった。

「他のポスト安倍の面々とは違って、首相は政権批判を繰り返して、ケミストリーや政策の合わない石破氏は許さないし、徹底して距離を置くということは分かっていた」（安倍首相側近議員）

これに対して、石破派はむしろよかったということだ。

「石破さんは、何があっても入閣しない、心配しなくていい、と言ってた。閣外にいることで、これで安心して総裁選へ思い切った準備ができる」（石破派幹部）

ポスト安倍へ向けては、今後石破氏が活動を活発化させることは間違いない。「地方行脚を続け、地方創生という政権構想をさらにブラッシュアップして総裁選に備える」（前出幹部）という。

日に日に強める安倍氏批判

こうした背景もあって、石破氏の安倍首相や政権運営に対する発言は一層鋭くなっている。

ざっと主なところを挙げると、まず、森友学園の国有地払い下げ、加計学園獣医学部認可、自衛隊の日報隠蔽問題などの説明責任を果

たしていない安倍政権に対しては……。

「我々忘れてはいけないのは、国会議員って全国民の代表者なのです。印象操作とバサツと切るのではなく、その向こうにいる国民に向かって語りかけるという、そういう姿勢が我々政治家には必要だと思っている。時間が経てば人は忘れるだろうと高をくくつていると、とんでもないことになる」（TBSテレビ番組で）

「説明責任を果たしているかというところ。果たしているならもともと国民が理解するでしょ。よく分からないという人が7割も8割もいるのは、正面から答えていないから。総理が誠実に丁寧に説明すると言ってるんだからそうやらなきや。政府関係者も、そして総理自身も」（関西テレビ報道番組で）

森友学園問題で国会答弁に立ち、その後国税庁長官に就任した佐川宣寿氏にも及んだ。佐川氏は、払い下げに関する記録は廃棄したなどと答弁し野党に批判されているが、国税庁長官に就任した後、恒例の就任会見を「諸般の事情」という理由で行なっていない。「批判かわし」と見られているが、石破氏は……。

「国税庁長官のその人が就任会見に出てこないなんて。私には、どう考えても分からない。記憶力がいいから役人をやつてるのであって、証拠を残すから行政なんであって、それを忘れました、記録はありません？ ちよとそれは酷い。ちゃんと会見して疑問について説明すべきでしょ。今全国を回つていて国税を払いたくないって言う人が多い。政府に近い人には安く払い下げてくれるなんていうことがまかり通るとすれば、国民は納得できませんよ。国民が税金を払うという気持ちになるために、長官は出て来ないといけない」（関西テレビ報道番組で）

また、憲法改正についても、安倍首相が示唆した9条1、2項をそのままにして、3項に自衛隊を明記するという改正案を真つ向否定。

「交戦権のない自衛隊なんていうのはないのに2つに分けるのはおかしい。どうしてそんなトリッキーなことをやるのか。ならば正面から2項を変えればいいんです。我が国の独立と国際社会の平和と安定のため陸海空軍、自衛隊という表現でもいい、これを保持する、それだけでいいんですよ」（関西テレビ報道番組で）

(自民党)



(本人HP)



(本人HP)



様子見の構えを見せる岸田氏(上)、野田氏(中)、河野氏の“ポスト安倍”有力候補3名

「安倍首相の2020年施行スケジュールについて」早く改正すべきというのは、議論が疎略であつてよいというのを意味しない。憲法改正をしようとする我々が、確固たる考えを持ち、街頭に出てそれを訴え、小さな集会でも訴えるということ。きちんとした知識を習得すること。それを可能にする行動を起こすこと。それが憲法改正の早道。いついつまでが期限だから、その時までにやれというだけが憲法改正の手段だとは思わない。正しいやり方と思わない(日本外国特派員協会の記者会見で)

そして、政権構想にも触れている。「日本を変えるプラン?あります。地方創生です。日本はこれから大変な時代になる。来年は明治政府ができて150年。この間、人も物も金もどんどん東京に集まってきた。中央集権が進み、地方はというと、努力しなくていいよ、公共事業をあげるよ、企業を誘致してあげるよ。でもこれからは大変な時代になる。少子高齢化、人口は80年後には半分。その人口がますます東京に集中して来たら日本は壊れます。国力をこれからもしつかり保つていくには地方が経済の担い手になる。実は地方には農業、林業、漁業、サービズ業など、伸びしろが物凄くある。地方が経済の担い手になるしかない(関西テレビ報道番組で)

大企業や東京が先行し、やがて果て、悲しんで、喜んでいいのかじつて、

「これからは全国、地方を回る。1718市町村、どこで誰が何に怒って、悲しんで、喜んでいいのかじつて、

「これからは全国、地方を回る。1718市町村、どこで誰が何に怒って、悲しんで、喜んでいいのかじつて、

り話す。それを分からなきや国会議員なんてやつてられない。これからの日本が大変なことになって、厳しい政策も必要になって来る。その時に、俺達のことを分かってくれるという前提がなければ、国民は政治家を信頼してくれるはずがない。佐藤栄作首相の時には三角大福中、中曽根康弘首相の時には安竹宮、と後継者がちゃんと準備した。それが組織であり、自民党だ」

様子見の岸田氏ら他候補

これに対して、他のポスト安倍候補の動きはどうか。

岸田氏、野田氏、それに菅官房長官が、「会合で名前を挙げた」(菅氏に近い2回生議員)とされる河野氏ら。

安倍首相側近がこう解説する

「今回入閣した野田、河野両氏、それに閣外に出たが、岸田さんも安倍首相を支えると言っているから、3人は禅譲狙いが頭の中にあると見ていい。安倍首相が改造前にそれぞれ個別に話してうまく取り込んだ人事の妙だ」

「岸田さんのスタイルは、仕えての

(東京都)



小池氏の動きも気になるどころだ

し上がるタイプ。前の派閥会長の古賀誠元幹事長について、忠誠心を発揮し派閥会長を射止めた。安倍首相と岸田さんが改造前に2時間にわたつて2人だけで会談したが、その時に、もし安倍さんが次の総裁選に出るなら、岸田さんは支え、一方で安倍さんが3選しても2021年まで総理をやらずに、ライフワークの憲法改正が実現した時は辞める可能性もあるし、何かあつて退陣することある。その時には安倍さんが岸田さんの後継指名して推すといった約束があつたと見えています」

一方野田氏は、就任後もぶら下がり取材や全国紙のインタビューで、「総裁選には常に出ると言い続ける」と出馬を匂わせているが、前出石破派議員は「表現をよく聞くと微妙な言い回しだということが分る。

『総裁選に出る』ではなくて『出る』と言いつける』と。おそらく岸田さんと同じように、安倍首相を支えてもらう代わりに、女性の総理候補としてあなたを支持するといった安倍首相の甘言があつたんじゃないか』と推察する。

石破氏自身もテレビ番組内で「自分の生きざまとして大臣や幹事長や政調会長をやっている身で、あれこれ総理を批判したり、総裁選に出ることはない。自分も一緒になつて政権を作っているのだから」と他のポスト安倍を牽制。つまり、言い換えれば、閣外や党役員から離れている石破氏にこそ、来年の総裁選に出馬し安倍首相と直接対決する資格があるという主張を展開した。

こうして見ると、ますます戦鬨モードに入つて行く石破氏に対して、禅譲を意識しながら様子見の他候補と言えそうだが、ただ、彼らにしろ、「支持率長期低迷となれば、禅譲狙いの面々も主戦論に変わる」と前出安倍首相側近は警戒感を常に持ち続ける必要性を説いている。

絶好の機会を自ら失う民進党

それにしても、ポスト安倍を語る時、

本来なら現政権の対向軸となる野党に候補がいなければ、健全な政治状況とは言えないのではないかと。

野党第一党の民進党は、政権の支持率が一気に下がっているチャンス時にも関わらず、蓮舫前代表が党運営に失敗して辞任し、代表選に突入した。

こんな時にお家騒動かと有権者が失望するのが分らないのだろうか。前述した「誰が首相にふさわしいか」の世論調査でも、野党の議員の名前は上位には見当たらない。

また、小池百合子東京都知事の「小池新党」が、小池知事の盟友の若狭勝衆議院議員によつて結成へ確実にコマを進めている。民進党からそこへ参加する議員も多く出てきそうで、野党側の再編含みの政治状況になつて来た。

若狭氏の新党については、小池知事は「協力、応援する」といった程度の関係だとしているが、果たしてそうか。知事周辺はこう話す。

「小池知事と若狭氏の政治的目標が同じで、しかも何と言つても小池さんの名前があるからこそ、この一連の大きな流れができた。いざ国政選挙になつて、小池さんの名前がな

ければ全く意味はないし、勝てないし、それはそれで、『実質小池新党隠し』なんていう批判が出るのは目に見えている。小池知事自身が次に国政に出るといふのはないが、共同代表と

いうことになるだろう。橋下徹と石原慎太郎という日本維新の会の最初の時と同じです。今回は、国会議員側の共同代表が誰になるかというのが焦点ですね。若狭氏は、一時は野田聖子氏を考えたこともあるようですが、野田さんは閣内に入つてしまひましたからね」

小池氏が前面に出て来れば、総選挙でも躍進が予想される。「50議席はメドが立つ」と話す小池知事周辺もいる。

小池新党が、民進党など野党との連携を目指すのか、はたまた非自民の新たな第三極を結集しようとするのか――。

それによつて、野党のフィールドに大きな石が投げ込まれ、再編が起ころ、野党の勢力図などが大混乱する可能性もある。

自民党はポスト安倍をめぐる乱世へ、野党もまた再編へと、永田町は秋以降「政変」含みの展開となりそう。